

毎日が 完全燃焼

奈良市教育委員会事務局
学校教育課指導主事

中澤 静男

健康が第一

「失って初めて知る健康の有難さ」と、よく耳にします。私も「子どもは元氣なのが当たり前」と思い、二十年あまり小学校の教員をしていました。

昨年の四月の異動で保健係の指導主事となり、子どもの健康的な学校生活が、保護者はもちろん、保健所や学校医、養護教諭、学校栄養職員や保健主事と、実に多くの方々の努力の賜物であることに気付かされました。今まで気付かなかった私もうかつでしたが、それだけ素晴らしいチームプレーが行われていたということでした。

微力ですが、課長の指示のもと、奈良市の子どもの健康を守るために努力する日々を送っています。

ディスカッション中心の 授業へ

私の大学院での研究テーマは、小学校社会科における構成主義的問題解決学習への授業改革です。ごく簡単に言えば、子どもと教員が対話を通して思考し、保護者や地域を巻き込みながら、共に成長するということです。



係長と私（向かって右）

これは何も社会科に限ったものではありません。どの教科においても、応答的なコミュニケーションが思考力を高めます。今後も、ディスカッションを中心にした学習活動を先生方と研究していきたいと考えています。

奈良発！ 世界遺産学習

奈良市には身近なところに世界遺産があります。この類まれな学習環境を生かさない手はありません。

世界遺産の価値を理解し保護するだけでなく、世界遺産を切り口にコミュニケーション能力や規範意識、異文化理解に取り組みつもりです。

夢を大きく持ち、失敗を恐れず前進したいと思います。

れ ・ こ れ

教師になって 今思うこと

桜井市立朝倉小学校・教諭
峠 千尋

はじめの一步

私が小学校の教師になって、もうすぐ二年が過ぎようとしています。今思えば、「あっ」という間の二年間でしたが、毎日が新しく、まるでドラマのような日々の連続でした。

小規模校で単学級という事は学級運営において難しい事もありましたが、先生方の温かいご指導や、子どもたちの優しさや笑顔に支えられながら、大規模校では経験できない数多くの事を学ばせてもらうことができました。

認め合い、成長し合える なかまづくり

昨年度は二年生、今年度は五年生の担任として、子どもたちと共に様々なことを学びました。

特に今年度は五年生の子どもたちと一緒にいろんな事を考え、納得のいくまでじっくりと話し合う機会が多かったように思います。子どもたちの「なぜ?」という疑問に対して、すぐに答えを与えることは簡単です。しかし、その疑問に対して「なぜだろう?」と考えさせる事、そして子どもたち自身に子どもたちなりの答えを見つけてさせる事の

難しさや大切さを知る事ができました。また、話し合いの中でお互いの本音をぶつけ合わせる事により、自然とそれぞれの性格や考え方の違いに気付き、「互いを認め合う」事につながるのだと、クラスの子どもたちの成長した姿を見て実感しました。

夢はまだ終わらない

念願かなって今、教師として子どもたちと一緒に過ごしている毎日が、本当に幸せでかけがえないものだと感じています。大学で学んだ事、バイト先で体験した事、自分の今までの人生における全ての経験を毎日の授業に生かせるということは素晴らしい事だと思います。

しかし、忙しい毎日の中でふと、「私は思い描いていた教師にどれだけ近づいているのだろうか」と思う事があります。「これでいいのだろうか」と悩む事もあります。そんな時、元氣いっぱいの子どもたちの存在が「やっぱり先生になって良かった!」という想いを新たにしてくれます。

これからも自分の夢に近づけるように、毎日笑顔で頑張ります。



5年生の子どもたち

教師1年生

蒲都市立大塚小学校・教諭

北川 飛鳥

初めの一步

中学生の頃から憧れた教師になるため、進学した奈良教育大学。その大学を卒業してからの1年、毎日が戦いです。分からないことだらけの毎日。授業の準備や研修、事務処理的な仕事：正直言って日々追われるような毎日です。それでも子どもたちに会うと、なぜか元気が湧いてくるのが不思議です。大学時代なんて、今では遠い過去のような気さえします。採用試験に合格したとき、「これでやっと…」と思っ

子どもの力

学級に行くと、子どもの顔が日々変わっているのが楽しみです。うれしそうに家での出来事を報告してくれたら、また、ある時は算数の問題が思うように解けなくて悔しくて涙を流したり。「今日は給食を全部食べたよ」「わかった！ 算数って楽しいね」「先生、今日の放課後はドッジボールやる？」などなど、毎日いろいろな声を聞き、毎日いろいろな顔に出会い、毎日私をうれしい気持ちにしてくれます。時には、腹が立つこともあるし、毎日くたくた



初めての学級開きで

に疲れるけれど、それ以上にうれしい時間が多いです。子どもたちのピカピカの笑顔に会いに、私は学校へ行っているのかもしれない…と思うほど、子どもからエネルギーをもらっているように思います。その子どもからのエネルギーを受け、私が子どものパワーをもっともつと引き出し、成長を導いていくことで、子どもたちに還元したいと思います。学校のことや授業のこと、話し方や指導の仕方など、まだまだ未熟な点は多いですが、先輩の先生方から良い所を盗み、勉強を重ねて、私も子どもと共に成長していきたいです。

あ ・ と ・ ひ

福祉の仕事に就いて

養護老人ホーム 尼崎市立長安寮・寮母
辻合由紀子



子ども達と一緒にアスレチック

んな、子ども達の心の傷をケアしながら自立へと導き、親との関係も図っていくという仕事は大変難しいものです。

子ども達の姿

入所している子ども達は同情的に見られがちですが、どの子も強い生きる力を持っており、私達と何ら変わりはありません。ただ、十分な愛情を受けられずに育ったり、自立する時に援助を期待できる保護者がいなかったりするので。

そのため、私達よりも将来の選択肢が限られ、早くに自立しなければならぬケースが大半です。しかし、精神的に未熟な子ども達が社会に出ても、仕事が続かなかったり、計画的に将来設計が出来なかつたり、色々な問題が起ります。そういった子ども達のフォローを出来る限りしていくことも仕事の一つです。

遣り甲斐のある仕事

福祉の仕事は成果がはっきりと見えないだけにしんどい仕事でもあります。ここまで遣れば終わりという区切りがないので、想いが強くなればなる程、遣りたいことも増えていきます。体力的にも精神的にもつらくなるため、子ども達が自立し退所を迎えると、燃え尽きたようになる人も少なくありません。それでも頑張れたのは、可能性を秘めた子ども達の笑顔と強く生きる力に励まされ、楽しい時間をたくさん共有できたからだと思えます。